

郡山市セーフコミュニティ推進協議会 防災・環境安全対策委員会 活動報告



報告者: 委員長 國分 晴朗 (郡山市自治会連合会 監事)

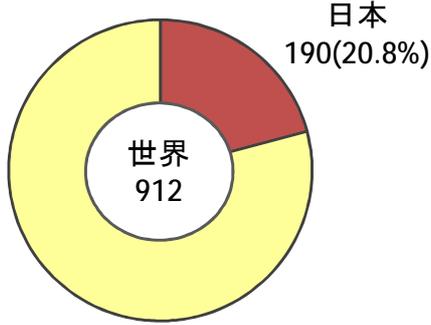
1 防災・環境安全対策委員会を設置した理由

理由① 災害を受けやすい日本

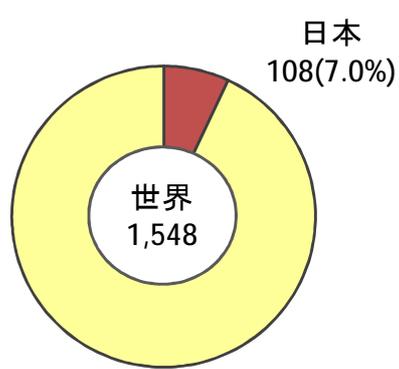
世界全体に占める日本の災害発生割合は、マグニチュード6以上の地震回数20.8%、活火山数7.0%など、世界の0.25%の国土面積に比して、非常に高くなっています。

図1

地震発生回数
(マグニチュード6.0以上)
1996～2005年の合計



活火山数
(過去1万年に噴火した火山)



注) 日本については気象庁。世界については米国地質調査所及び米国スミソニアン自然史博物館の資料をもとに内閣府が作成。

内閣府公式ウェブサイト
防災情報のページより
一部引用

理由② 郡山市も大きな災害を経験

東日本大震災(2011.3.11発生)の被害状況

図2

- 人的被害 死者 1名 重傷 2名 軽傷 2名
- 建物被害

	全壊	半壊	一部損壊	その他	計
公共施設	0	8	61	134	203
住家	2,294	18,749	32,062	168	53,273
店舗等	278	918	4,333	30	5,559
計	2,572	19,675	36,456	332	59,035

- 道路・橋りょう・河川・農業施設等

亀裂	隆起	陥没	その他(護岸崩壊等)	計
789	160	997	755	2,701

- 水道施設(震災発生直後)

漏水箇所 約1,000か所 断水戸数 約37,000戸(断水人口 約97,000人)

- 下水道施設(震災発生直後)

被災管路延長 約7,050m マンホール等破損 536か所

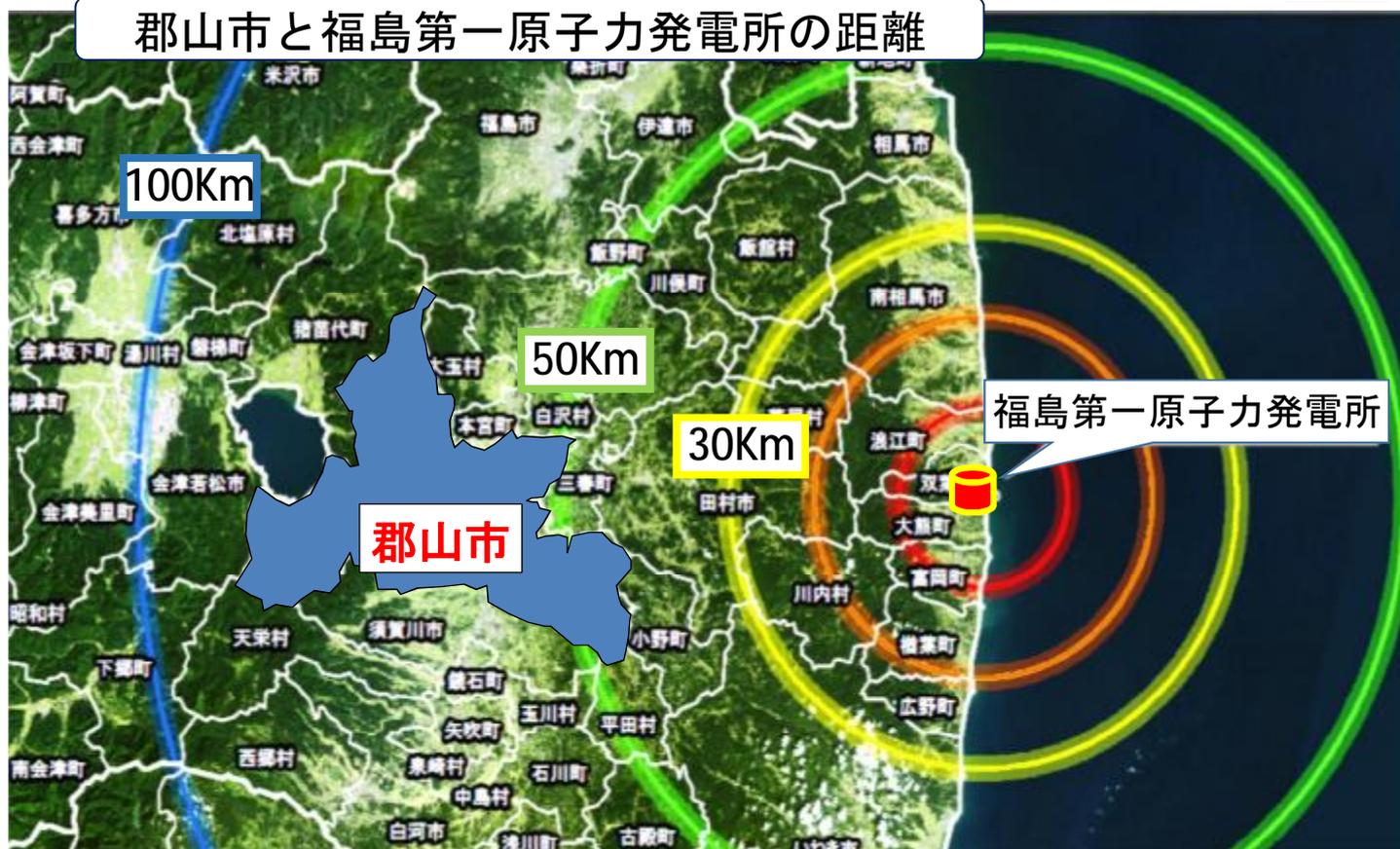
郡山市にとっては、気象庁が観測を開始以来、初めての大規模な地震災害であり、甚大な被害をもたらしました。

2

理由③ 福島第一原子力発電所の事故

図3

郡山市と福島第一原子力発電所の距離



3

原発事故による郡山市への影響

事故直後の住民の不安は大きかった

- ・ 平常値より高い放射線量となり、子どもたちの屋外活動の制限や、汚染物質の除去（除染）等が必要となった。
- ・ 子どもを中心に、県外への自主避難が行われ、人口が減少した。
- ・ 現在は、住宅の除染もほぼ完了し、放射線量も著しく低下している。

これまでに放射線による健康被害は発生していません。

放射線量の推移

図4

事故前の平常値(0.04~0.06μSv/h)よりも高いものの、大きく低下している。

測定場所	2011/3/29	2016/12/31	低減率
	空間放射線量率		
郡山合同庁舎	2.59μSv/h	0.10μSv/h	96.1%
郡山市役所	2.57μSv/h	0.17μSv/h	93.4%

出典 郡山市の原子力災害対策(第12版 2016.12.31現在)

**理由④ 災害をなくすことはできない。
しかし、被害を減らすことはできる。**

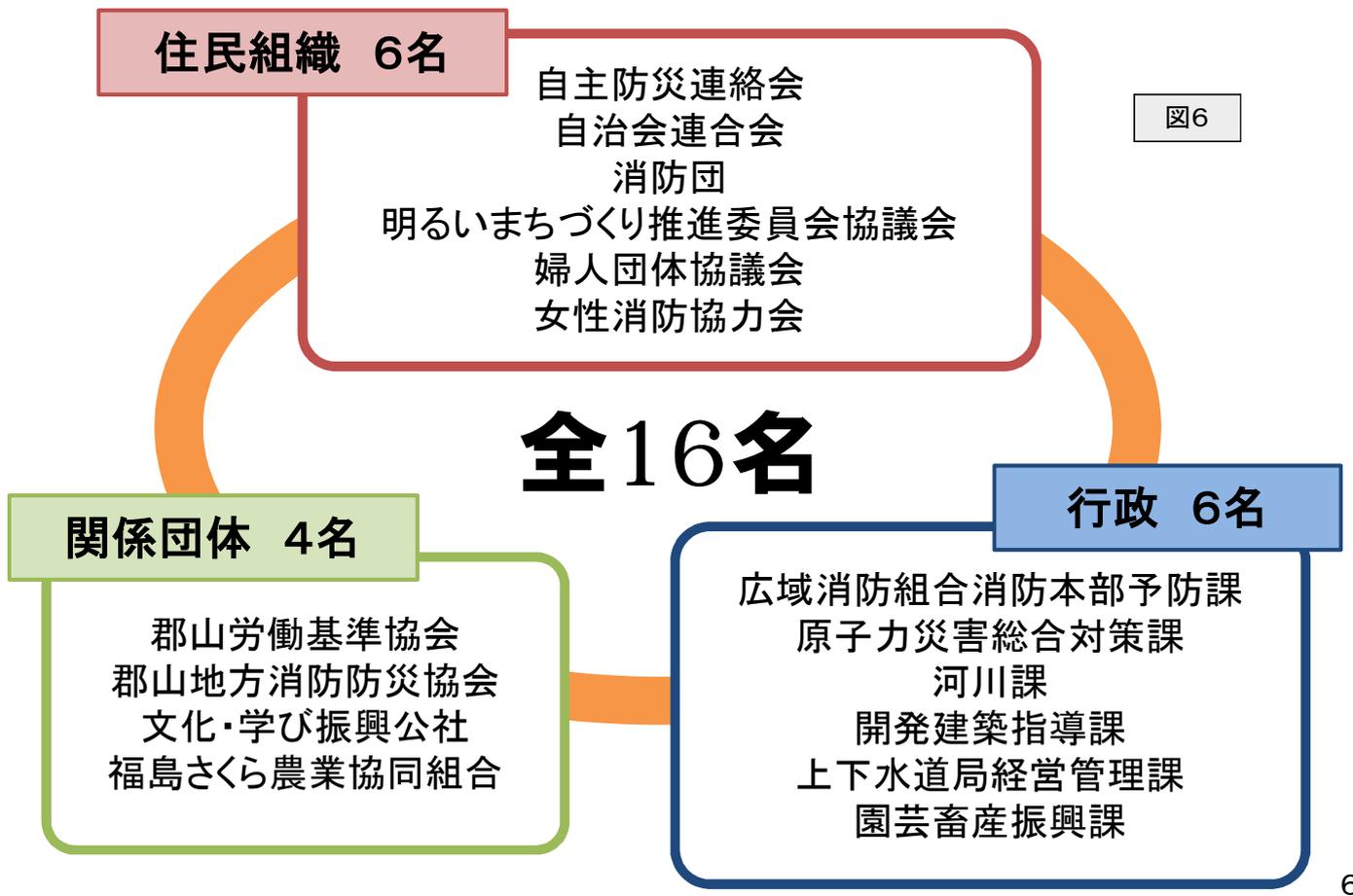
図5



- ### ハードウェアの対策（実施中の例）
- ・ インフラの耐震化
 - ・ 通信や送電システムの冗長化
 - ・ 消防力の増強
 - ・ 河川改修による治水 等
 - ・ 避難所の整備
 - ・ 緊急ヘリポート
 - ・ 物資備蓄
 - ・ 気象観測施設の整備
 - ・ 建物の耐震化
 - ・ 耐震性貯水槽の設置

- ### ソフトウェアの対策（実施中の例）
- ・ 防災計画（国・県・市）
 - ・ 防災訓練（国・県・市）
 - ・ 応急復旧技術の向上
 - ・ 業務継続計画 等
 - ・ 自治体間の相互応援協定
 - ・ 報道機関による正確な情報提供
 - ・ 重要データのバックアップ

2 防災・環境安全対策委員会の構成



防災とは？ 環境安全とは？ 対策委員会における定義

図7

防 災

自然災害や人間が引き起こす災害(人災)を防ぐこと

自然災害 → 地震災害 台風災害 水害 火山災害 等

人 災 → 火災、労働災害 等

※交通事故は対策委員会を別に設置

環境安全

人災による環境の悪化を把握し対策をすること
人が活動する環境の改善を図ること

環境の悪化 → 放射性物質の飛散 大気汚染 等

活動する環境 → 労働環境 住宅の環境 等

3 これまでの活動経過

図8

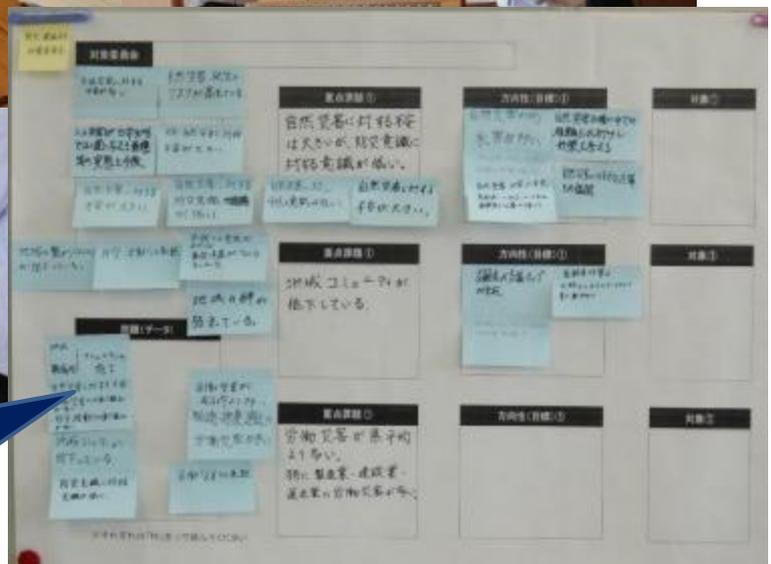
回	ワークショップの内容	
第1回	セーフコミュニティの共通理解	
第2回	主観的な課題の検討	
第3回	客観的課題の検討	
第4～第5回	重点課題の抽出	
第6回	方向性・対象の検討	
第7回～第10回	具体的な対策の検討	
第11回～26回	対策及び評価方法の検討	評価、分析

8

活動の様子



ワークショップで
検討を重ねました。



意見やデータから
わかったことを
整理しています。

9

郡山市の災害① 台風災害、水害 30年間で6回の被害

図9

発生年	降雨の原因	死者数	浸水建物数	避難者数
1986(S61)	台風	2人	3,126件	1,119人
1998(H10)	梅雨前線の活発化		1,216件	5,119人
2002(H14)	台風		406件	2,067人
2004(H16)	台風		12件	928人
2010(H22)	発達した積乱雲		515件	2人
2011(H23)	台風		1,684件	1,763人

郡山市では、台風や集中豪雨等により、過去30年間で6回の大規模な被害が発生しています。

10

郡山市の災害② 地震災害

再掲

東日本大震災(2011.3.11発生)の被害状況

図10

●人的被害 死者1名 重傷2名 軽傷2名

●建物被害

	全壊	半壊	一部損壊	その他	計
公共施設	0	8	61	134	203
住家	2,294	18,749	32,062	168	53,273
店舗等	278	918	4,333	30	5,559
計	2,572	19,675	36,456	332	59,035

●道路・橋りょう・河川・農業施設等

亀裂	隆起	陥没	その他(護岸崩壊等)	計
789	160	997	755	2,701

●水道施設(震災発生直後)

漏水箇所 約1,000か所 断水戸数 約37,000戸(断水人口 約97,000人)

●下水道施設(震災発生直後)

被災管路延長 約7,050m マンホール等破損 536か所

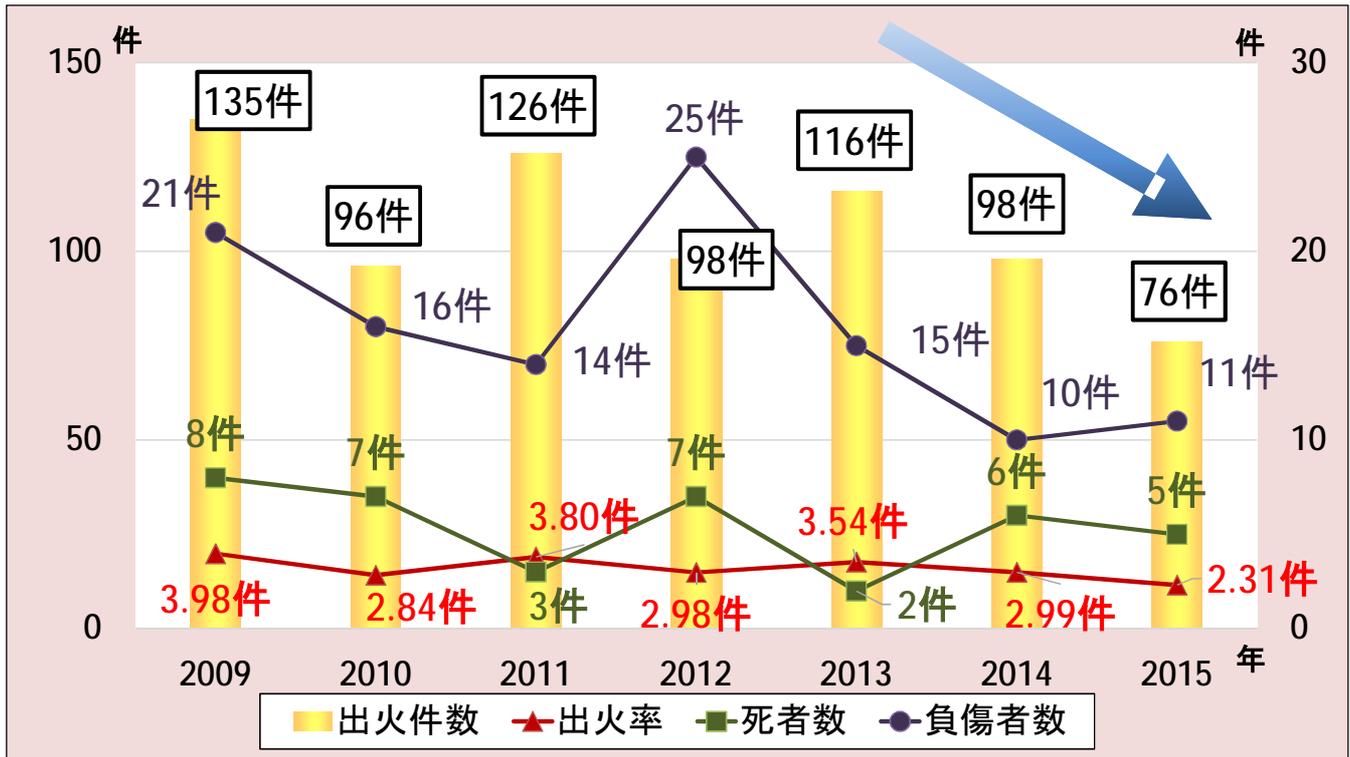
郡山市にとっては、気象庁が観測を開始以来、初めての大規模な地震災害であり、甚大な被害をもたらしました。

11

郡山市の災害③ 出火件数の推移

以前は毎年100件前後発生 ⇒ 2013年以降は減少

図11



出火率: 人口1万人あたりの出火件数

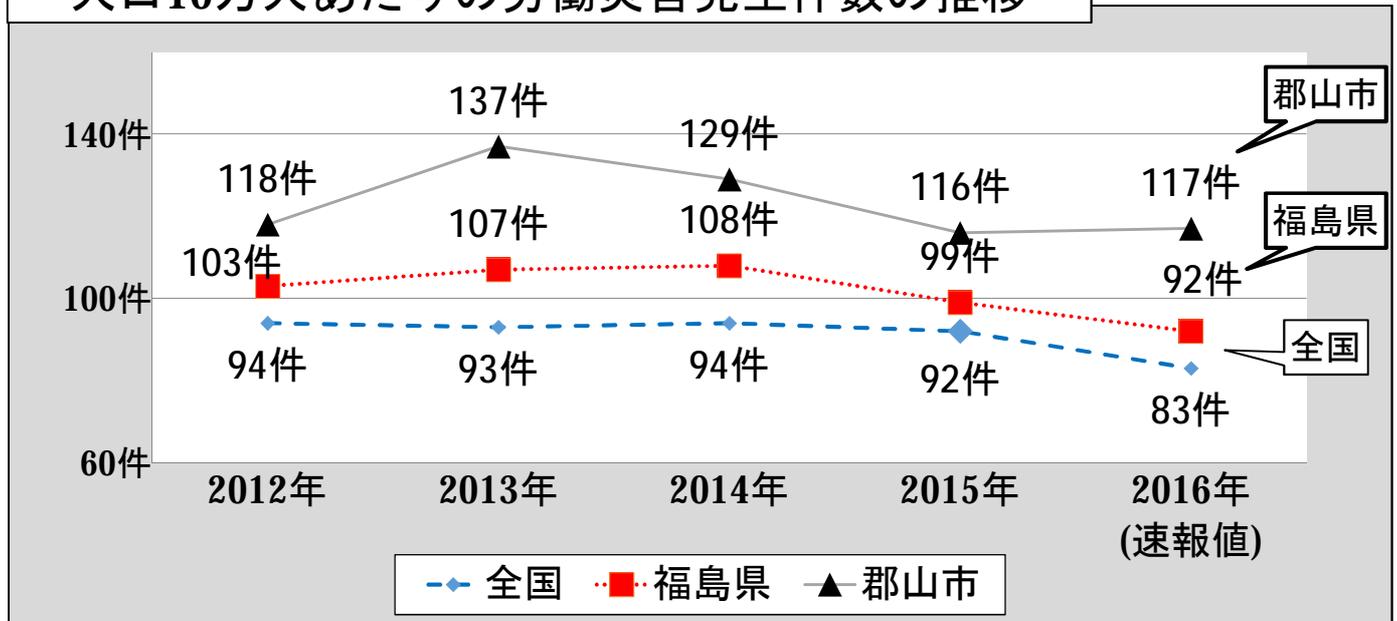
出典 郡山地方広域消防組合消防年報

12

郡山市の災害④ 労働災害の件数推移

人口10万人あたりの労働災害発生件数の推移

図12



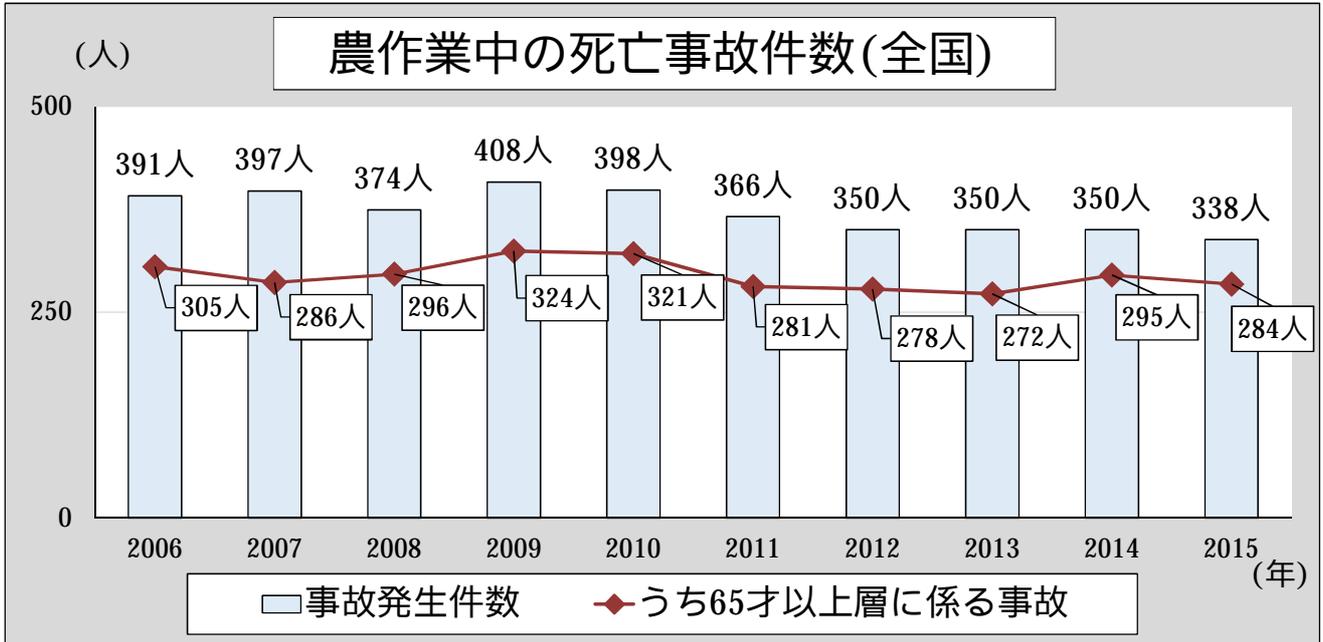
厚生労働省労働基準局・福島労働局・郡山労働基準監督署「2012～2016年労働災害発生状況」より

人口10万人あたりの労働災害の発生件数の推移では、郡山市は、全国及び福島県を上回る状況が続いています。

13

労働災害の統計には対象業種に「農業」が含まれない。
農作業中の死亡事故は、65歳以上が全体の8割を占める。

図13



2006～2015年農林水産省調べ

市民の意識① 災害に対する不安

(回答数 n=1,464)

自然災害に対する不安を感じているのは、市民の69.7%
放射線による健康被害が約65.1%、火災が約58.3%

図14

順位	けがや事故などの要因	割合(※)
1	交通事故	70.9%
2	自然災害に巻き込まれること	69.7%
3	原子力災害に伴う健康被害	65.1%
4	火災に巻き込まれること	58.3%
5	犯罪に巻き込まれること	55.3%
6	外出時の転倒・転落等による事故・けが	51.4%
7	自宅での転倒・転落等による事故・けが	44.5%
8	職場での事故・けが	35.1%
9	余暇・スポーツでの事故・けが	33.0%
10	学校での事故・けが	26.0%
11	いじめや虐待による精神的苦痛	24.7%
12	暴力(いじめ、虐待を含む)によるけが	23.7%

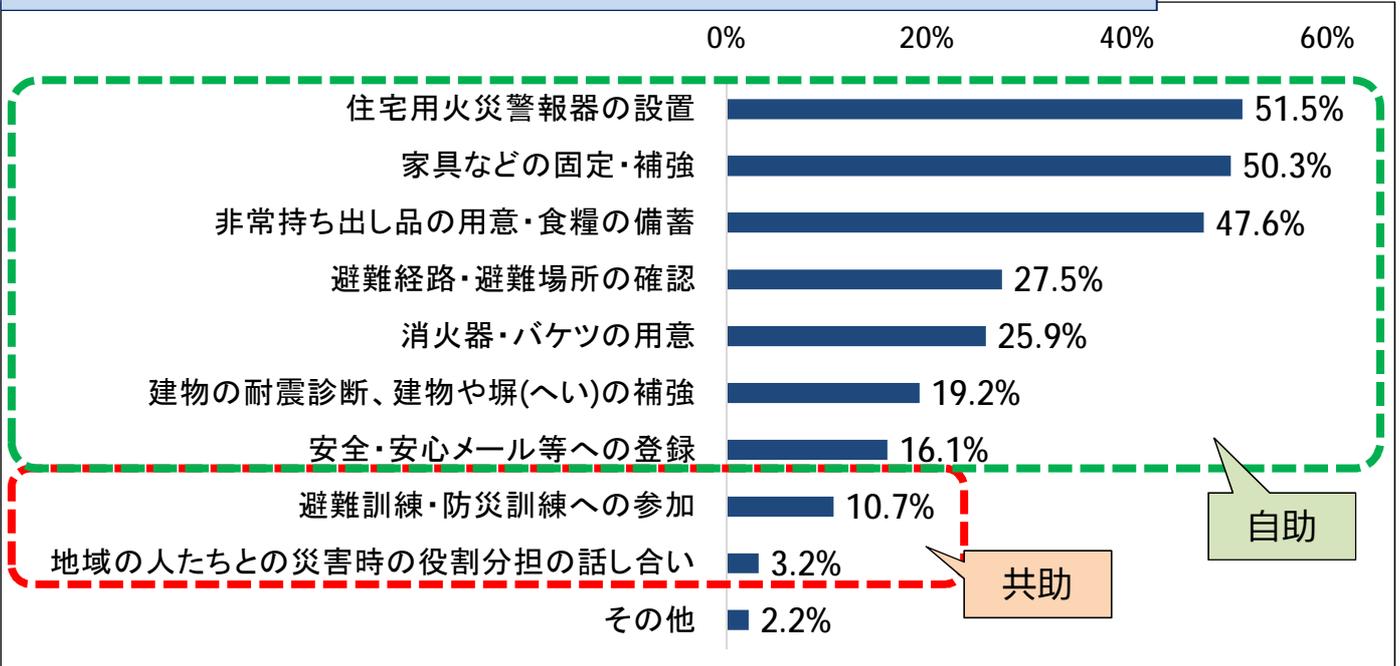
出典：郡山市セーフコミュニティ地域診断2014年度 市民意識調査 (※割合＝「非常に不安である」＋「不安である」)

市民の意識② 災害に対する各自の備え

一部に半数程度の実施が見られるが、「自助」「共助」の部分ともに低い。

市民が各自実施している災害対策 回答数 n=1,190、複数回答

図15



出典：郡山市セーフコミュニティ地域診断2014年度 市民意識調査

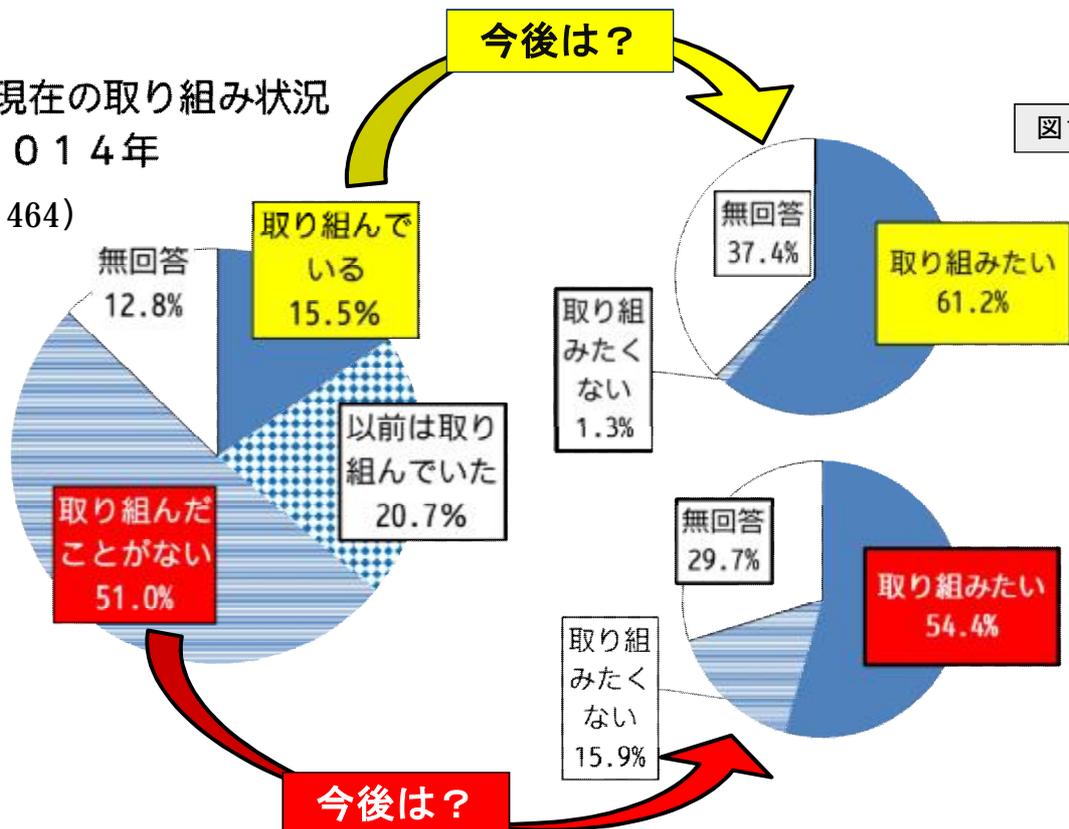
16

市民の意識③ 防災活動への取組み

防災活動の現在の取組み状況
2014年

(回答数 n=1,464)

図16



出典：郡山市セーフコミュニティ地域診断2014年度 市民意識調査

17

市民の意識④ 地域コミュニティへの参加

町内会

住民に最も身近な自治組織。
災害時には、避難誘導等において重要な役割を担う。

役割の例 ※郡山市地域防災計画より抜粋

例① 避難、避難状況の把握は町内会単位で実施
避難状況の掌握、又は避難住民との連絡調整は、避難が原則として町内会単位で実施されることから、各町内会の会長、あるいは町内会において、指名された者を窓口として行う。

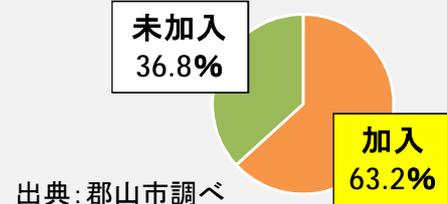
町内会は、東日本大震災でも有効に機能しました。

↓ しかし、加入率は・・・

図17

町内会加入状況(2016年6月現在)

- ◆ 現在人口台帳世帯数 …… 139,611世帯
- ◆ 町内会加入世帯数 …… 88,302世帯

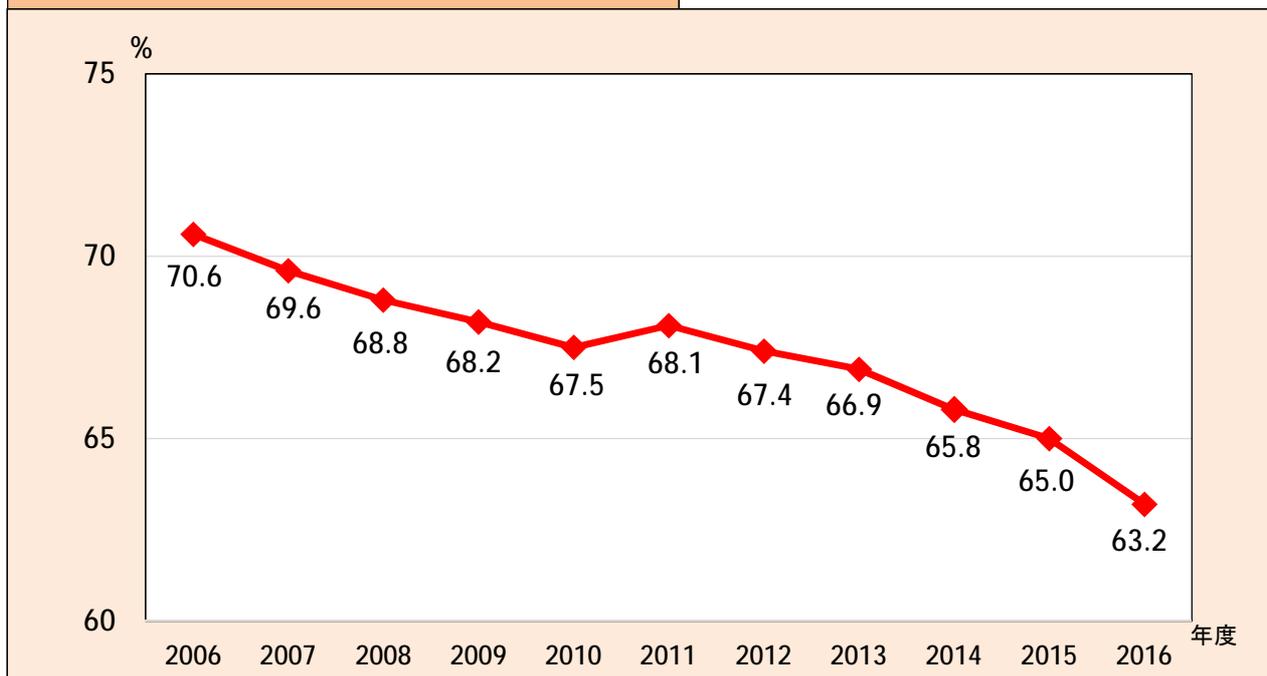


18

町内会への加入率は低下傾向。
地域内の交流や連携の低下が懸念される。

町内会加入率の推移(郡山市)

図18

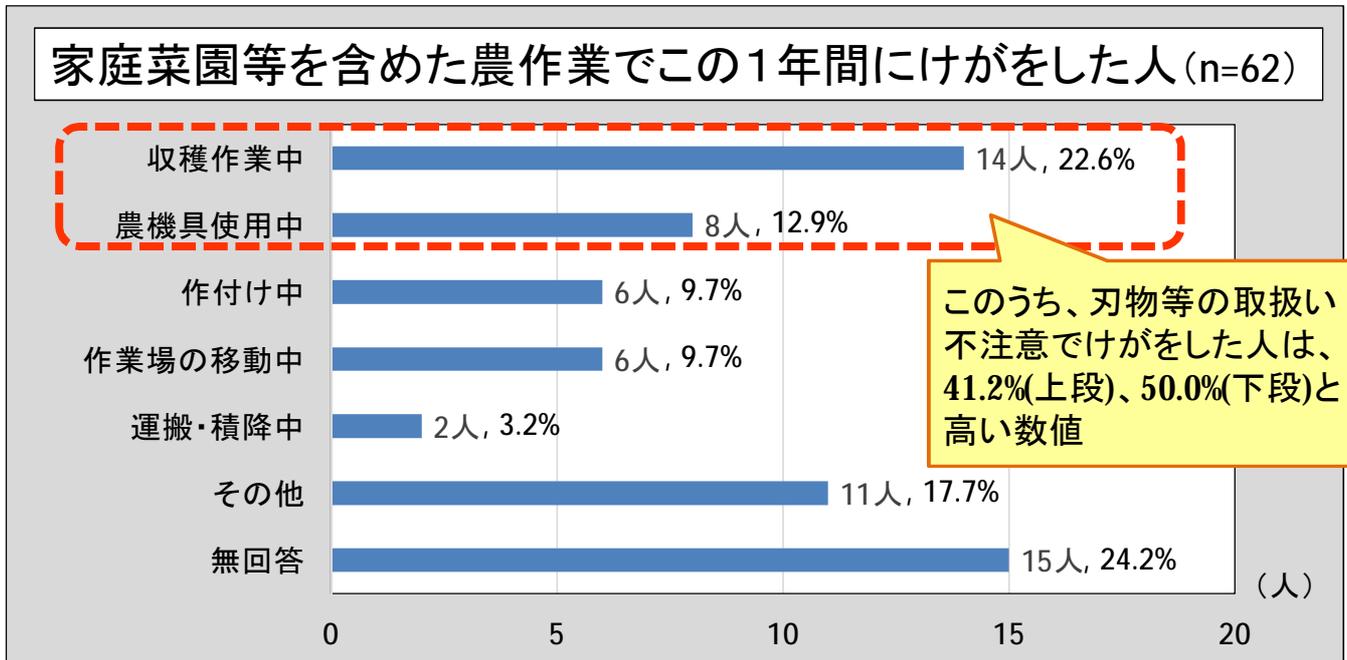


19

市民の意識⑤ 農作業時におけるけがの発生原因と状況

収穫作業中や農機具使用中にけがをした人が、全体の中で多い。多くは、刃物等の取扱い不注意が、けがにつながっている。

図19

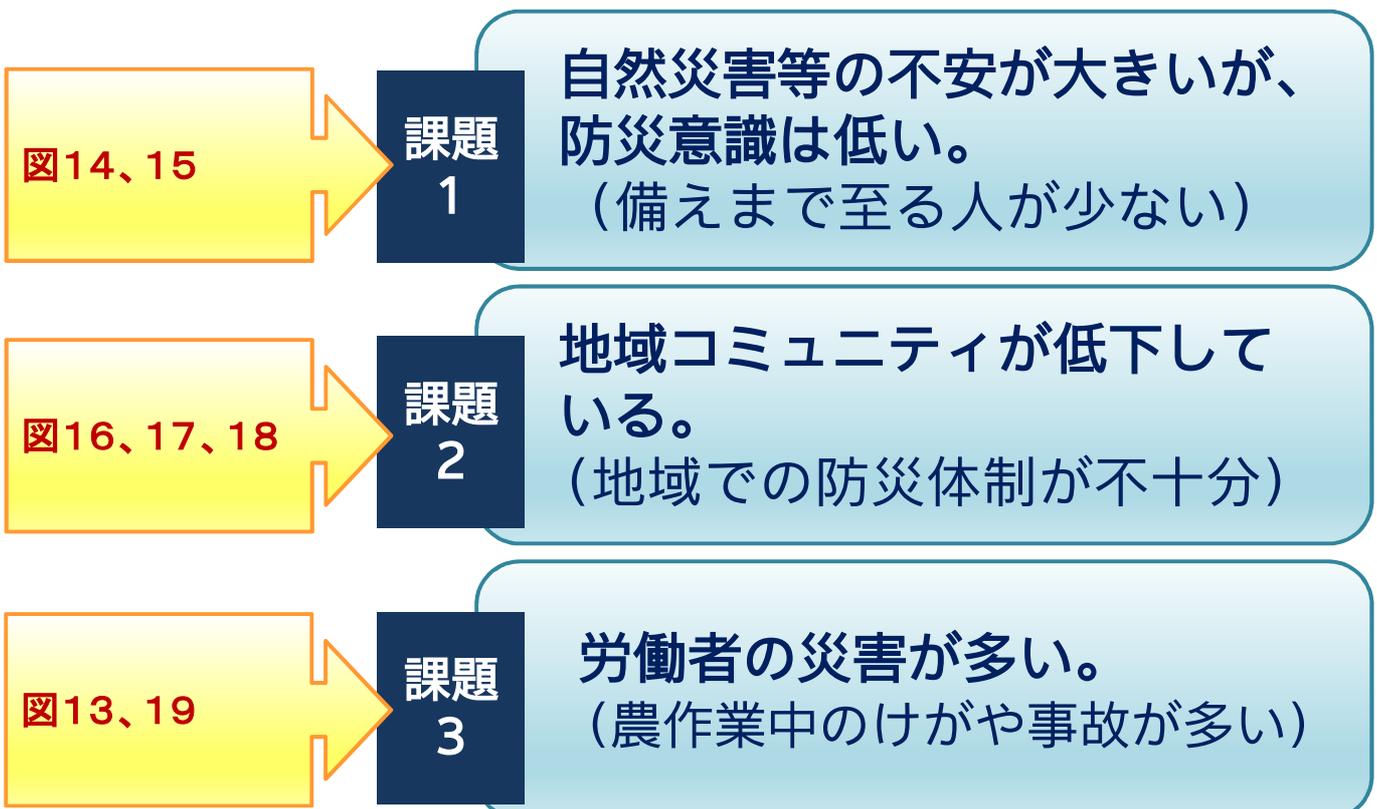


出典：郡山市セーフコミュニティ地域診断2016年度 市民意識調査

20

4 重点課題の選定

図20



5 課題に対する方向性、対象、取組み

図21



22

課題に対する既存の取組み概要

図22

課題	分類	国レベル	自治体レベル	地域レベル
① ② (共通)	環境改善	被災者支援制度 地域防災力充実	要支援者支援制度 防災組織支援・強化	要支援者見守り 避難誘導・救護
	規則・規制	法整備・計画策定	計画・マニュアル策定	計画策定
	教育・啓発	訓練・研修会実施	防災情報配信 訓練・研修会実施 防災冊子作成・配布	訓練・講習実施 地域内安全点検 防災意識啓発

事例①

事例②

課題	分類	国レベル	自治体レベル	地域レベル
③	環境改善	相談窓口開設 労災保険給付制度	相談窓口案内	安全衛生管理
	規則・規制	法整備・計画策定	マニュアル策定	マニュアル策定
	教育・啓発	安全衛生啓発 安全研修実施	安全衛生啓発 安全講習実施	従業員教育 安全点検啓発

※ 当該労働基準監督署管内

23

既存の取組み事例①

2017年度郡山市総合防災訓練
8月26日(土) 小山田小学校



24

既存の取組み事例②

防災冊子の発行・配布（郡山市）



わが家の防災ハンドブック
（日本語版・多言語版）

ハザードマップ
（浸水・土砂災害・火山）

25

課題①に対する取組み

課題
1

自然災害等の不安が大きい
防災意識は低い。
(備えまで至る人が少ない)



方向性1
防災意識の
向上

そのために・・・

図23

- ① こども(学校)を起点に親や祖父母まで巻き込む
- ② 家庭での備え、避難経路や連絡方法の確認実施

主な
取組み

- ・ 地域防災マップ作成の普及促進
- ・ 公共の場での防災学習促進 (学校や公民館等)
- ・ 地域での防災啓発 (回覧板、行事等)

26

地域防災マップ作成の普及促進

New!

図24

～自分のまちを探検しよう!!～
地域防災マップの作成

～平成20年度に市内の小・中学校27校と市民(子どもから高齢者まで)を対象に、自分の住んでいるまちに思い(学習)を持ち、防災意識の向上を図ることに、地域のコミュニティが強化される取り組みを展開したいと考えています。そのひとつとして、「地域防災マップ」の作成についてご紹介します。

「ぼうさい探検隊」 ※平成20年度に市内の小・中学校27校と市民(児童・学習者)を対象に、自分の住んでいるまちに思い(学習)を持ち、防災意識の向上を図ることに、地域のコミュニティが強化される取り組みを展開したいと考えています。そのひとつとして、「地域防災マップ」の作成についてご紹介します。

防災マップの作り方

みんなでまちを探検 → 防災マップ発見!! → 町ごとに防災マップの発表

町ごとに防災マップの発表

参加した児童の皆さんは、まちの中にある防災施設を見つけたり、危険箇所をチェックしながら、防災マップを作成しました。この経験で、児童の皆さんの「防災意識」が変わりました。

→ 基団へ

ぼうさい探検隊 アンケート結果

実施日：平成20年2月1日
対象者：市内小・中学校27校の4年生と学習者
対象：マップづくりの準備に約3時間の学習時間

参加した児童の皆さん、そして、お父さんやお母さん、おじいちゃん、おばあちゃんのご協力のおかげで、アンケートを実施しました。その結果は・・・

【4年生】マップづくりは楽しかったですか？

楽しかった	54%
まあまあ楽しかった	42%
どちらでもない	5%
楽しなかった	19%

【4年生】自分の防災意識の変化

あまの増えたと感じる	43.2%
あまの減ったと感じる	43.2%
変わらない	13.6%

【学習者】平日への月ごとの変化

あまの増えたと感じる	16.0%
あまの減ったと感じる	11.1%
変わらない	72.9%

「マップづくりは楽しかった」という感想が多く寄せられました!!
中には、皆さんの防災意識が高まっていることがわかりました。

みなさんの学校や地域で「**地域防災マップ**」をつくってみませんか?

◇お問合せ先：**熊山消防署防災危機管理課 (052-216)**

課名	担当課	電話番号
このまちをまわす	防災危機管理課	924-2161
防災マップをつくる	防災危機管理課	924-2161
防災マップの発表	河川課	924-2101
防災マップの発表	河川課	924-2101
防災マップの発表	上下水道課	922-7644

ぜひご利用ください!
無料です。

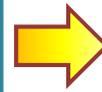
熊山消防署防災危機管理課

27

課題②に対する取組み

課題
2

地域コミュニティが低下している。
(地域での防災体制が不十分)



方向性2
地域での
防災体制の
整備

そのために・・・

図25

- ① モデル地区を選定 (郡山市久留米地区)
- ② 防災活動を通じた地域内交流(助け合い)の活性化

主な
取組み

- ・ 地域の防災活動への参加促進 (訓練、講演会等)
- ・ 防災意識アンケート実施 (地区単位)

28

防災活動への住民参加(2017年度)

【自主防災講演会】 89人参加

アンケート実施 (n=66)

地域の防災活動に役立てたい 72.7%

【市総合防災訓練】 5,000人参加

アンケート実施 (n=53)

地域の人と交流できた 35.8%



「今後は地域の防災活動に参加したい」とほぼ全員が回答!



29

防災意識アンケート【郡山市久留米地区】

図26

【実施時期】 2017(H29)年3月 【対象数】 1,915世帯
 【回収数】 1,281件 【回収率】 66.9%

調査結果

抜粋

調査項目	回答	割合
防災を考えるきっかけ	防災冊子に関心がある	59.5%
地域住民としての認識	災害時は「共助」が重要	45.0%
地域コミュニティ活性化	「隣近所との協力関係」が最も効果的	63.9%
	今後自分も関わっていきたい	70.9%

この結果を今後の地区活動に生かし、一定期間（1～2年）経過後に再びアンケートを実施し、意識や活動状況の変化を調べる。

30

課題③に対する取組み

課題
3

労働者の災害が多い。
 (農作業中のけがや事故が多い)



方向性3

作業中の事故を防ぐ意識の向上

そのために・・・

図27

- ① 関係店舗や各種機会を通じた広報
- ② 農作業時の安全に対する意識向上と対策実施

主な
取組み

- ・ 農作業中の熱中症対策の啓発
- ・ 身近な農機具の安全対策の啓発

31

農作業時の安全対策の啓発

New!

笑顔を未来につなげよう セーフコミュニティこおりやま

農作業時の熱中症に注意しましょう!!

熱中症(野外活動中に発症)による年代別救急搬送人員 n=12

今年、8月15日までに熱中症によって市内107名の方が救急搬送されました(そのうち、12名が農作業などの野外活動中に発症)。
特に、**野外での長時間の農作業時**は、こまめな水分補給や暑さを避けるなど、熱中症対策をしっかり行いましょう。

提供: 郡山地方広域連携協議会

天気予報と体調の確認

日頃から天気予報をチェックする。
体調不良時は無理をしない。

こまめな水分補給と休憩

喉が渇く前に積極的に水分をとる。
涼しい場所で適度に休憩する。

**暑さをしのぐ服装
安全な作業環境**

帽子と通気性の良い衣類を着用する。
暑いハウスの中は風通しをよくする。

高齢の方は特に注意!

高齢の方は、暑さや喉の渇きを感じにくくなっています。
周りの人も声をかけてあげましょう。

体調に異変を生じたら作業中断!

涼しい場所に避難させる → 衣服を脱がせ、身体を冷やす → 水分を補給する → 自力で水を飲めない、意識がない場合は直ちに救急搬送を要請しましょう

郡山は、けがや事故を防ぐ国際基準の安全・安心に取り組んでいます。
郡山市セーフコミュニティ推進協議会 防災・環境安全対策委員会
お問合せ 郡山市総務部防災危機管理課 TEL.024-924-2161

笑顔を未来につなげよう セーフコミュニティこおりやま

事前の点検・確認で農作業事故防止!!

農作業中のけがをした割合(状況別) n=92【平成28年市長選調査】

農作業中の死亡事故は、全国で年間350件前後あり、そのうち機械作業に係る事故は60~70%を占めています。
「慣れた作業だから」といって、ご自身の技術や知識を過信せず、もしもの事態を想像し、機械や保護具を正しく使いましょう。

身近な農業機械! **刈払機の安全対策**

けがや事故が多い場面

- ⚠️ 不安定な姿勢によるもの (滑った、転んだ、側溝などに転落した)
- ⚠️ 周辺環境によるもの (石や空き缶、テッポウ飛散で負傷)
- ⚠️ 回転している刃によるもの (刃が回転したまま手足が接触して負傷)

点検・確認 防護巻帯!

けがをしないためには

- ◎ 傾斜面・法面の一部に平坦な小さい段を設置、スパイク靴の着用も有効
- ◎ フェースガードまたはゴーグル、安全靴、飛散防止カバーなどを正しく着用
- ◎ 草むらに潜む穴や溜樹、切り株、大きな石、空き缶などがなければ**事前点検**
- ◎ 刃に絡まった草を取り除くときや刈払機を置くときは必ず**エンジンを停止**

郡山は、けがや事故を防ぐ国際基準の安全・安心に取り組んでいます。
郡山市セーフコミュニティ推進協議会 防災・環境安全対策委員会
お問合せ 郡山市総務部防災危機管理課 TEL.024-924-2161

32

成果指標

図28

課題	取組み	活動指標	成果指標		
			短期	中期	長期
① 地域防災マップ作成の普及促進		周知回数 配布数	マップ作成団体数		
① 公共の場での防災学習促進(学校や公民館等)		学校数	出前講座等受講者数		
① 地域での防災啓発(回覧板、行事等)		回覧数 配布数	出前講座受講者数 災害対策実施者数		
② 防災活動への参加促進(訓練、講演会等)		周知回数 配布数	防災活動への参加者数		
② 防災意識アンケート(地区単位)		回数	共助の重要性の認識度		
③ 農作業時の熱中症対策と農機具の安全対策の啓発		配布数	安全への認識度 安全対策実施者数	救急搬送者数	

防災意識の向上

33

これまでの成果 (2015～2017年)

図29

課題	取組み	活動評価	成果評価		
			短期	中期	長期
① ②	地域防災マップ作成の普及促進	4回 約300枚	4校 延べ約170人		アンケート 実施予定
①	公共の場での防災学習促進 (学校や公民館等)	4回 約300枚	延べ約1,700人		
①	地域での防災啓発 (回覧板、行事等)	1回 約1,580枚	出前講座: 延べ1,700人 市民意識調査実施予定		
②	防災活動への参加促進 (訓練、講演会等)	15回 約600枚	訓練: 延べ1.5万人 講演会: 約300人		
②	防災意識アンケート (地区単位)	1回	共助の重要性認識: 約45%(再掲)		
③	農作業時の熱中症対策と農機具の安全対策の啓発	約1,470枚	アンケート実施予定	救急搬送者数	

34

各課題における問題点と今後の進め方

図30

重点課題	問題点	今後の進め方
①	学校は年間カリキュラムがあるため、当該年度内に授業に取り入れるのは極めて困難。	次年度カリキュラムが決定するまでに各学校へ早めの普及啓発を行う。
②	地区によって、防災活動状況や近隣同士の交流 (助け合い) に温度差がある。	先進的な地区 (モデル地区) の事例紹介などにより、他の地区への普及につなげる。
③	無理をしがちな高齢作業者の意識改善や不特定多数の家庭菜園を行う人へ直接啓発は難しい。	協力店舗等からの意見を踏まえ、対象者の興味をひく啓発方法と機会を検討する。

35

御清聴ありがとうございました

防災・環境安全対策委員会